

会報

15号



函館の歴史的風土を守るの会会報

№15 S 58. 10. 20 発行
 発行所 函館の歴史的風土を守る会
 印刷所 双葉印刷所
 電話 (0138) 53-7730

いきづく町並みレポート

ユニオン・スクエアと街づくり (旧郵便局舎の再生とその意義)

明治44年建築の往時の函館文化を象徴する赤レンガの旧函館郵便局舎は、6月末、改修工事を終え「ユニオン・スクエア」として再生した。会社倉庫として使われていたこの建物に、修復活用の理念に賛同する人々が店舗・事務所として入り、多くの人々の触れ合いの場として装いを新たにしたのである。

局舎の改修工事・デザイン・利用法については、昨年我々が訪れたサンフランシスコの港の側の缶詰工場だったキャナリー、チョコレート工場だったギラデリーが参考になった。ギラデリーのオーナー、ウィリアム・M・ロスの古い建物に対する保存行為は、市民の良識を示したものであり、北部海岸地区の開発に重大な影響を与え、高層ビル建設からこの地区を救い百年近くも守られて来たその規模と特色を維持することになった。我々の限られた資金では、資産家であるロスの真似など到底できる筈もなかったが、保存活用への精神は同じであり、ほぼこの建物の持つ特色を生かすことができたと思っている。この局舎の内部の広々とした吹き抜けの構造、陽光が差し込むガラス張りの天窗、歴史の年輪を感じさせる梁、いずれも最近我々が忘れかけていた心豊かな、精神的解放の空間がそこにはある。ひと気がなくジメジメとして暗く魚の臭がしていた建物が、一挙にイメージチェンジをしたのだ。若者たちや夫婦づれがこの広場を散策し、ガラス越しに店の器物を覗きこんだりショッピングを楽しむ一方、子どもたちが明るい声を出しながらデッキ廻り(回廊)を駆けめぐっている。こんな光景を見るにつけても、この古い建物が今後はもう建築不可能なスケールと、如何に大きな価値を有していたかを歴然と思い知らされたのである。これこそまさしく、祖先が子孫に残してくれた歴史的文化遺産である。

歴史的建物の保存活用と言えば、得てして、指定文化財的保存か明治村のような静的保存、或いは資料館の活用が主である。しかもそこには死んだような静寂さと郷愁があるだけで、ふだん生活している人々の息吹きは感じられない。これからは建造物が、人々の日常生活を営んでいる場とダイナミックに係わり合う動的保存の考え方に立たねば

ユニオン・スクエア代表 大河内 憲 司
 歴風会副会長

ならないと思う。我々はこれまで「使い捨て」の風潮の中でいつのまにか「スクラップ・アンド・ビルド」が新しい街づくりと錯覚して来た。

何にでも栄枯盛衰があるから、人間でも建物でもいつかは倒れる。然し病気なら治療をする。応急手当が必要なら早急かつ適切に処置をし延命をはかる。寿命のある限りは出来るだけ長生きさせるといのが、建物保存の原理ではないだろうか。古い建物がこれまでの働きを失なったからといって捨て去ってしまうのではなく、新しい価値を見出し新しい機能を附加して、大切に使うところと愛情が必要だ。古い建物でも現代の基準や新しい概念に合うよう手をかければ、ユニオン・スクエアのように生き返らせることができる。新しい生命を吹き込まれた旧函館郵便局舎が、点から面へと周辺の再活性化を促す媒体となり、地域全体を蘇らせる起爆剤となるならば、これこそ新しい街づくりの役割を担ったことになる。この「ユニオン・スクエア」は、民間人が自力で示した歴史的建造物の動的保存と街づくり参加の実践例である。函館に真の工芸を根付かせ地場産業への展開を図ろうとするクラフトマンたちの夢、木工を通じて子どもたちと木との触れ合い、若い人たちのユニークで魅力的な店づくりの場、そして人々が楽しく交流し語り合う広場としての機能……など、このユニオン・スクエアは未来に向け種々の可能性を内包している。然しスクエアが今後街づくりの中でどう生かされるかは、当事者としての我々の問題だけでなく、これを取り巻く市民一般の街づくり意識の如何に依っている。いずれにしても豊かな都市環境を創るためには、そこに住んでいる住民が自分たちの地域づくりは、自らの手でやるという意識と行動が必要とされる。これからの街づくりは、「我々は自分たちの子孫にどんな美しい街、どんな素晴らしい文化遺産を残せるか」、それを決める重大な責任を負わされている。

そのために民間と行政が一体となって街づくりに励む時活力ある函館の再生が可能となる。「街づくりを軽べつする人は、軽べつに値する街しか持てない」無関心と人任せからは何も生まれて来ないのである。

私とユニオン・スクエア

「かもめの水兵さん」

村岡 武司

新しい店を出すとか、新しい事業を始めるとかいう事は、大変な不安のつきまとうものです。できるならば現状のままでいれば、目に見えた大きな失敗はしなくて済むというものです。余計な神経を使う位なら、テニスコートで汗を流してエビスビールで補給するという生活の方が、ずっと健康的です。

これは、規模の大小の問題でなく、私という人間が非常にナマケモノであるからでもあります。こんな私が、ユニオン・スクエアに「ミセ」を出したのです。それも非常に苦心して。

一応先輩、友人達に「どうしたもんだべ」と相談した所、ほぼ90%の返事が「オマエの様なナマケ者無理ダベ」と言う「新身溢れるアドバイス」でした。これが反対にヤレヤレという意見であったら、私の出店計画は中止していたでしょう。「駄目」と言われた方が心強いのです。さて、その他に出店した理由が二つばかりあります。

その一つはレンガです。私が育った十勝地方は純農村地帯です。広い空と風通しの良い町並みです。文化を吸い取ってありがたい風情を醸し出す建物など、目にする事などできません。旧郵便局舎の堂々たるレンガ造り、この赤レンガが私を吸い取る作用を持っているのかもしれない。



その二は、伊丹慎兵氏です。

二年程前になりますが、元町の氏の工房を訪ねた折、氏は非常に澄んだ目で三平汁をつくっておりました。私は氏と共に三平汁を賞味する栄養に浴したのです。「絶品」でした。私はその時「越の寒梅」を所持していました。多少の未練はありましたが、氏の作品三平汁に釣合うには、かかる銘酒以外には無かったわけです。以来、私は氏の行動を全面的に支持する事にしたのです。店名も氏にちなんで命名した次第です。

ユニオン・スクエアとポポログラッソ

佐藤 信子

○函館にはなつかしいものがあります。

心意気であり美に対する執着心です。

創造する人々がこの函館に集まり、西部地区にユニオン・スクエアが生まれ函館の盛時を呼びおこそうとしている。

戦後の函館しか知らない私にとって母は函館のプライドそのものであり、私の想像の中の函館が出来上がってしまった。しかし、幾つかの銀行支店がなくなる頃から東京以北最大のまちの昔話もさみしくなってしまった。

「フェリーニのアマルコルド」を観て、その郷愁が伝わり、美しさを感じたのは函館に生まれたことに他ならないと思ったことがある。

函館で服作りをするとき、このユニオン・スクエアの器

があれば、私の主張が出来る。

ブランド名はポポログラッソ。イタリアの所産であるルネッサンスの初期の勢力「物持ち衆、PoPolograssoから。専制化しないように一字かえて採ったもの。服は着る人の感性と風土が必要。そして、意識する本体に溶け込むものであること。

※ポポログラッソ服作り コンセプト※

美意識を追求してこわくなってしまいうり

手前のもどかしさが私は居心地よい♪

ジャンクショップ「陳」チェン

陳 有 崎



美容室 パスク・ベレー
岡 本 幸 彦

私は異国情緒ある函館が好きである。なかでもこの西部地区が最も函館らしいと思っている。古き良き時代の面影を残し、ひっそりと昔をしのんでいるまちだ。

比の度、西部地区の独特の良さを残すということと同時に西部地域を発展させていくという目的をかかげ、赤レンガ造りの旧郵便局舎が「ユニオン・スクエア」として再生された。私はテナントの一員として参加できたことを誇りとし、一歩ずつ確実な努力をしていく覚悟です。そして観光客は勿論、函館市民の憩いの場として西部地区発展の可能性を担ってスタートしたユニオン・スクエアを暖く見守ってほしい。

函館の歴史的風土を 語り・知らせ・守ろう

何か描くのであれば白地から始めた方が上手にでき上るであろうし、家を作るのであれば更地の方が都合がいい。ここユニオン・スクエア附近は商業活動の中心的役割を見離されて久しいものがあり、今再び新しい何かを創り出すという時、至難、無謀の誇りを免れないのは衆人の一致するところである。

函館に永く生活する者には、西部・銀座方面の衰退は筆舌に尽しがたいものがあり、都心は東漸し人口も漸減し、廃虚の如き建物が残り（ノラ猫も残った）、老人が踏みとどまり観光客が勝手に訪れる、いわゆる観光地域としての特徴を表わすようになってきた。

産業としての観光という側面から歴史的建築物の保存が叫ばれ、行政当局より元町公園等の整備が推進され一定の効果を上げているが、その不十分性が指摘されているのも事実であり、いくつかの問題も提起されました。

そして、これらの問いかけに具体的かつ大胆に提言するのが、このユニオン・スクエアであると言えよう。以下に思うままその意義を拾い上げ考えたいと思う。

まず観光商品としての建物保存について、その方法論運用論に於いては、市公会堂との対比によって示される。また西部地区観光地へ駅前からの橋渡しの存在が明らかとなり拠点となりえる。更に一過性の観光客にばかり追従するのではなく、むしろ普く市民全体の生活に必要な、或いは楽しい存在とすべく目論まれ、商業活動として十字街、銀座方面の振興が促される可能性だってありえるだろう。然し何といても理想に燃える市民運動・文化運動・地域運動へ一つの典型を与えるものとして、他者への勇気づけの方が大きな意義を持つと考えられる。

この極めて注目されるに値するユニオン・スクエアのテナントの一員にささやかながら加わる事になったが真に震憾の思いである。ちなみに小生の小店は「ジャンク・ショップ 陳（チェン）」と呼ぶ。

古きに磨きをかけて開業する。友人、旧友はこそって冷やかに訪れてほしい。

※完成時出店数は20を予定しています。

註) 函館郵便局の歴史は古い、明治5年3月、開拓使郵便局が開設され、明治20年、函館郵便電信局と改められた。この建物は明治40年の大火で焼失し、現在の赤レンガは明治44年に建てられたものです。外壁のレンガは東京製瓦会社製、函館製レンガは内側だけで、設計は通信省です。

港湾都市の再生、函館のニューウェーブ

石 塚 雅 明

(柳田・石塚建築計画事務所主宰)

<都市の再生と歴史的町並みの保存>

地域の古い建物や町並みを残そうという動きは、近年、全国各地で聞かれるようになった。しかし一方でそれらの動きがうまくいっているという話は、数少ない。

日本では、古い建物や町並みが残っているということとその地域が低滞・衰退していることが背中あわせの場合が多いといえる。残っているといっても、かろうじて残っているのもあって、建物は傷み、町は活気がなく薄汚れた印象を与えている。古い建物のもっている人も、その地域に住む人も、おおかたは地域の歴史的町並みに無関心で、住むことに誇りを失っているケースが多いのではないだろうか。

しかし、健全な状態で残っているとはいえないにしろ、少し距離をおいてみれば、歴史的町並みは、その地域に存在感を与え、美しくさえ見える。愛着も感じる。その地域に住むという自覚と誇りを与える環境をつくる…というまちづくりの基本テーマを実現するうえで歴史的町並みがはたす役割の大きさがそこにある。しかし、残ってほしいと念じるだけではどうにもならない。環境の荒廃と地域経済・社会の衰退を再生するという複雑な課題にとりくむなかで、歴史的町並みの保存が考えられなければ現実的とはいえないであろう。

<函館のニューウェーブ>

函館西部地区は、美しい自然の造形に開港場のエキゾチックな歴史絵巻の展開する町である。シーズンには、多くの人がこの歴史的町並みにひかれ、やってくる。しかし、その華やかさの背後には、他の町と同様に港湾を中心とした地域経済・社会の低滞が感じられる。おちついて一方が活気がない。歴史を感じさせるたたずまいが残っているが、一方で新しいものを創造するエネルギーが感じられない。数年前までの印象は、そのようなものであった。それが、この数年大きく変わってきている。

函館の歴史を感じさせる建物…明治時代の蔵・商家、大正時代の事務所ビル、教会などを、その建物の特色をうまく生かして魅力ある商業、観光施設として甦らせる動きが急増してきている。

一見して古い銀行や教会、蔵とわかる建物がホテルや喫茶店であったりする意外性は楽しいし、太くりっぱな材料を使った柱、梁、そこここに見られる職人芸の細工など、

なかなか現在では使うことのできないものが目を楽しませる。下見板の壁や高い天井など、日本ばなれした特異な印象も、開港場の函館の歴史とダブってすてがたい魅力として人をひきつけ成功している。それら、新しい魅力をともなって現代に甦った建物が町のそこここ特に、今まであまり活気のなかった港近くに数多く見られるようになってきている。圧巻は、この会報でも紹介されている、明治末のレンガ造、旧函館郵便局を再利用したユニオン・スクエアであろう。

これらの民間の動きや、西部地区の町並みを考える市民運動に呼応するかのように、公会堂の修復、復元をはじめ基坂・元町公園の整備が進んできている。

全体として環境は目に見えてよくなり、新しい魅力も加わり、活気が感じられるようになってきた。古い建物の再利用に係わった人達の話しを聞くと、共通して町や建物に対する愛着が強く、地域に根ざしながら魅力ある歴史的風土…函館の再生に意欲を燃やしていたのが印象的であった。西部地区の低滞、ひいては函館の低滞を再生していく力が歴史的建物や町並みをつうじて生まれつつあるという実感がわいてくる。

ひとくちに都市の再生といっても、その手掛りをどこに求めるか難しい問題である。解答のえられぬまま、混迷を深めているケースがほとんどであろう。その点、函館の今後の展開が広く注目されるのである。

<今後の課題として>

このように自らの生活をつうじ、都市の再生にとりくむ姿、エネルギーには頭が下がる。今後、課題は山積しているように、英知を結集し、のりこえていくものと期待する。

たとえば、古い建物を修復、維持管理していくには、個人個人の負担にあまるケースが多いと思う。再利用について適切なアドバイスを得られる場も少ないと思う。行政の手助けが必要であることはいうまでもないが、それとて限度はあろう。市民共有の歴史遺産を支え函館再生をすすめるために市民一人一人が果たさなければならない役割は今後大きくなると思う。具体的には、経済的な面では町並み基金、英知の面では町並み情報センターのようなものも考えられてよいのではなかろうか。そのためにも、より多くの市民の理解が必要になる。函館の歴史的風土を守る会をはじめとする市民運動が担う役割は大きい。

石蔵の茶房を開いて

入 村 美 代 子

昨年の7月にお店を始めてから、お陰様でまる1年たちました。お客様のお叱りやご教示とうをいただきながら努めて参りましたがサービスの方はまだまだで申し訳なく思っております。

ただお店が函館山の登り口にあり、市、西部の観光地区に近接しておりますこと、家業の質屋の蔵として使っておりました石蔵一棟を原形を生かす形で利用しておりますことで、どうやら助けられている様に思います。

この石蔵は母屋（住居兼質屋）や土蔵（共に明治30年代の建物）と棟続きで、大正10年に増築されたものです。お店に転用するまでは行李等のや、大きめの質物を保管する蔵として使っておりましたが質屋を利用される方が年々少なくなってきましたため、こゝ数年使われずじまいでした。

明治40年には石川啄木夫人が旅費を工面するため質入れに来店されたと聞いておりますが場所的にも観光ゾーンにも入りますし、先代が心こめて作りあげた建物だけにこのまま朽ちさせるのは勿体ないと思案して、お店を始める様になりましたきっかけになったと思えます。

お店の現在の様子を説明しますと石蔵1・2階をお店に下屋（土蔵と石蔵を結ぶ通路として使っていました）を玄関にそれぞれ転用しております。広さはお店62.84㎡（そのうち1階約40.24㎡、2階約22.60㎡、玄関12.98㎡）となっております。なお2階は一部吹抜けとなっております。その部分の1階から天井までの高さは約8m近くあります。

お店に改装する際の基本になる考え方としては下屋の出入口をそのまま玄関に転用できたという利点もありまして石蔵も下屋も、もとの建物そのまま使うことにし改装は内部を中心に行うことにし

ました。

窓のつくりも外側の黒壁もそのまゝで窓の外側についた観音開きの防火用の扉が象徴的だと思います。内部の改装についても極力蔵のもつ特性を生かす様心がけました。これらの特性を挙げてみますと、①建物がどっしりしている、②窓が小さく少ないため暗い、③外の物音が聞こえない、④2階建の住居より天井が高い、⑤夏涼しく冬暖かい等かと思えます。

改装にあたって心掛けた主な点を思いつくまゝに掲げてみますと第1にゆっくり寛いていただくために2階の一部を吹抜けにしたこと、第2に同じ考えから1・2階とも配席数を控え目にしたこと、第3にいろんなご利用が出来る様1階は椅子席、2階は座敷風と変化をつけました。第4は天井は柱組みがわかる様にむき出しのまゝとしたこと、

第5に行灯風の外灯や薪を使う暖炉を設けたことなどでしようか。この様に1年実際使ったわけで石蔵の茶房として地元の方々から遠来の方々からもご好評をいただいている様でありがたいと思っております。ただ難点はスペースの割に席が少ないということで夏場の観光シーズンあたりには満席でお帰り願うことのあるのが辛いところです。と申しましてもゆったりして頂くのが特徴のひとつでもありますので席を増やせもせず申し訳ないと思っております。

最後に頭の痛い点を申し上げますと土蔵等をお持ちの方ならなだでもお悩みのことと思えますが維持管理とくに外壁の補修が大変だということです。吹き降りの大雨のあとや地震のあとなどは足場を組んでの大きかりな工事を必要とすることが多くこのときばかりはコンクリートでないことを恨みたくありません。



昔と今の質草あれこれ

吉井民子

戦前、最盛期には市内には百軒もあった質屋が、戦後は60軒ほどになり、現在ではその半数の30軒そこそことなり利用者も少なくなってしまった。その最大の原因は月賦販売の普及と、雨後の筍のように全国に拡がり近頃何かと問題を起しているサラ金業者の氾濫である。

月賦販売は高価な品物でも何回払い又は何十回払いで買うことが出来るので、質屋に物を持って来て金を借りる必要はなく、サラ金は、之も現物がなくても身分証明とサインで多額のお金を融通して貰えるので、後々のことを考える暇もなく利用されるようである。

天保年間から7百年の歴史を有する質屋の存在は巷間であって庶民に大変親しまれ、有難かられて利用されて来た。近年では、質屋業者は庶民の実情に通じ良き理解者であると認められて、民生委員、児童委員、保護司を委嘱される人も多い。

父の代(大正初期から戦前)の利用者は生活の苦しい人、年令的には若い人より中年以上の男女が多かった。洋服を着るのは一部の人(官吏、巡査、医者、教員等)に限られていたので、殆どの人が和服であった。従って質草も和服類が多く、之に付随して帯、袴、角巻、外套などが入った。貴金属の所有者もごく一部に限られ(当然の所有者お金持は質屋の対象にならない)競馬師(全国の競馬開催地を追って馬券を買う人)香具師(露店を出したり見世物の興行する人)の親分、博徒の親分などが金鎖のついた金側懐中時計や印台の指輪、二の腕にはめた二纏巾の金の腕輪を質入れした。親分お直々の時もあれば子分が持って来ることもあった。女の方は、べつ甲の櫛、こうがい、珊瑚や翡翠のかんざし、根掛け(いづれも日本髪装飾品)ダイヤ入りのかまぼこの指輪が質草となった。近くに遊郭や置屋(芸者、娼妓を抱えておく家)があったので、之等を頼まれて来る小女も又良家の奥様の使いとして来る女中さんも、5銭10銭のお駄賃が目あてのようであった。

当時は身分証明などやかましいことを言わなかったの、持参して来た人の住所氏名で入質出来た。

サラリーマン(月給取りと言っていた)は月給と月給の端境期が苦しいらしく、当座しのぎに借りに来た。生活苦の為に来る人も多く、中でも日傭い人夫(1日いくらで傭われる人で出面取りとも言われた)は雨が降ると仕事にあぶれるので、大事な印半天を質入れしてその日のお米やお菜を求めた。子供達が遠足や運動会の日には、なけなしのお金をはたいて弁当やおやつを持たせてやるようだった。現在のように社会福祉制度の確立されていなかった頃のことである。

今は殆んどレジャーの金(競輪、競馬、麻雀、パチンコ)や月賦の支払に入用のお金を借りに来るせい利用者層は大変若くなった。とは言っても未成年者はお断わりである。どやどやと二、三人で入って来て皆で時計をばづし、お金を受取る間にも玉の出の多いパチンコ屋のことや、何時どこで新期の店が開店するなどと声高に話して出て行く。かつての暗いイメージは少しもない。真新しいテレビ、ステレオ、ラジカセ等を運び込む人もいるが之は月賦で買って頭金だけ払い、即、質入れして頭金以上のお金を借りると言う一つの生活の智恵かも知れない。或る男の人が何年来同じ時計を月に数回、出し入れするが貸金は常に5千円である。本人にとってその時計は5千円札と同様なのだろう。専らパチンコの資金となり勝った負けたと一喜一憂している。

近頃は高級な指輪、時計、ネックレスが質入れされているのも月賦販売で買求められるからだと思う。また成人式にたった一度手を通したと思われる豪華な振袖が、正月も半ばを過ぎると幾枚か入って来る。受取りに来ない人の方が多いのは、やはり月賦で買ったもので愛娘を着飾らせた晴着だと言う愛着も未練もないのだろうか。

最近、私の親類に当る同業者が質屋の土蔵を喫茶店にして大変繁昌している。外観をそこなわず、内部も太い梁や立派な天井を見せて吹抜とし、古き良き時代をしのばせる趣興が旅行者や地元の人々の心を捉えたのだと思う。その上観光客の往来の多い上町とゆう地の利も多分にある。とかく因習に捉われやすい質屋業界にあって定めし反対の声もあったろうに、決然と転用に踏切ったママさんの勇気を称賛したい。そして行きづまりつつある同業者の一大警鐘を乱打したことに絶大の敬意を表し声援したい。

「お宅でもやって見ては」

と時々人に言われるが誰もがやって成功することではない。上町と下町では客筋が違う(之は質屋も同じ)夜の女の出没する巷では、まかり間違えば悪の溜り場になりかねない。

何とか質屋業界に生き残り4代目に継がせたいのが念願である。

なお、一言附記させて頂きたい。私の拙書「質屋の蔵」の表紙に画かせて頂いた土蔵が、喫茶店となった土蔵である。

~~~~~

(註) 吉井民子さんは、みやま書房から出た「質屋の蔵」の著者です。

## 「写真史料館を函館に！」

写真史料保存会事務局長 佐藤 清一  
歴風会々員



▲旧小林写真館（大町・東坂）M40年建築  
現存、道内最古の写真館、相当に補修しなければならぬ。



▲旧渡島支庁2階に機材を展示中のケース2個  
「北海道写真史料保存会」のネームプレート  
を各ケースに入れてあります。

「函館に写真史料館をー」写真の好きな仲間が、函館から古い写真の道具などが散逸するのを喰い止める、地道な活動を始めたのが5年前でした。

小さくてもいい、写真発祥の地・函館に写真史料室が欲しい、と、出来るあてもない夢を抱きながら史料の収集活動を進めて来ました。函館市内はもとより、友人知人を頼りに札幌・小樽・江差方面など各地に手を広げてゆきました。

古くなって使われなくなった機材、大切にしまいこんだ写場用カメラ、カタログなど私たちが想像していた以上に気持良く寄贈してくれる人が多かったです。なかには激励してくれる人もおり心強かったが、史料館が出来たらと云う話だけのこともあった。

この様にして集まった物の中には、今では手に入れる事も出来ない大型（四切の乾板）のアンソニー型カメラ5台中型・小型カメラなど400台がある。

この他に明治時代の首胴押さえ、薬品のハカリなど撮影暗室用品類も数ある。また、写真製版関係のカメラ（長さ2m）もある。

予想以上の早さで多くの物が集まり、これまでの考を改め、もっと積極的に「写真史料館」設立の運動を進める必要が生じてきた。

代々写真館に引き継がれて来た機材類を史料館のためならと寄せられた多くの人が高令者でもあり、又、期待も大きく、その責任も強く感じております。

昨年9月末「北海道写真史料保存会」（会長竹田又平函

館写真材料商組合長、副会長正田量一道南写真師会々長）が発足しました。

写真業界の人をはじめ、史料館設立に理解賛同された人ばかりですが、肩のこらない楽しい話題の多い集まりです。多忙な会員が多く、会のPRや呼びかけも行き届いておりませんが、元町公園の旧渡島支庁舎二階に小さなショーケース2個に銀板写真や明治時代の仏製レンズなどを当会が展示しております。旧函館区公会堂の一階には旧小林写真館で使用していたものが市教委のはからいで展示されています。6月1日、写真の日には、ロマン座で使用した劇場用映写機2台が寄贈され、会で最大重量の保有物となりました。史料館？の展示品が順調に集まるのは嬉しいのですが、収蔵品が増えて置き場所がないという大変なやみが起きてきました。ある人は、知人の店や倉庫、仕事場、市外の人に頼み込んで預ってもらうなど、機械を保存するにも不適當と思える場所にもやむおえずという状態です。収蔵場所が分散しているため、まだリストも作れませんが、書物、古写真などを合わせると1000点ぐらいになりそうです。

函館は「ロシアルートの写真術発祥の地」であるばかりでなく、現存する日本最古の写真が嘉永7年（1854年）箱館でペリー艦隊によって松前藩家老らが銀板写真に収まった所です。ぜひとも特異な写真の歴史をもつ函館に「北海道写真史料館」が作られるように、これからも頑張りますので皆様のご支援と理解を下さるようお願い致します。



## 民家は生きている その②

### 寄棟造りの民家

運営委員 三原直太郎

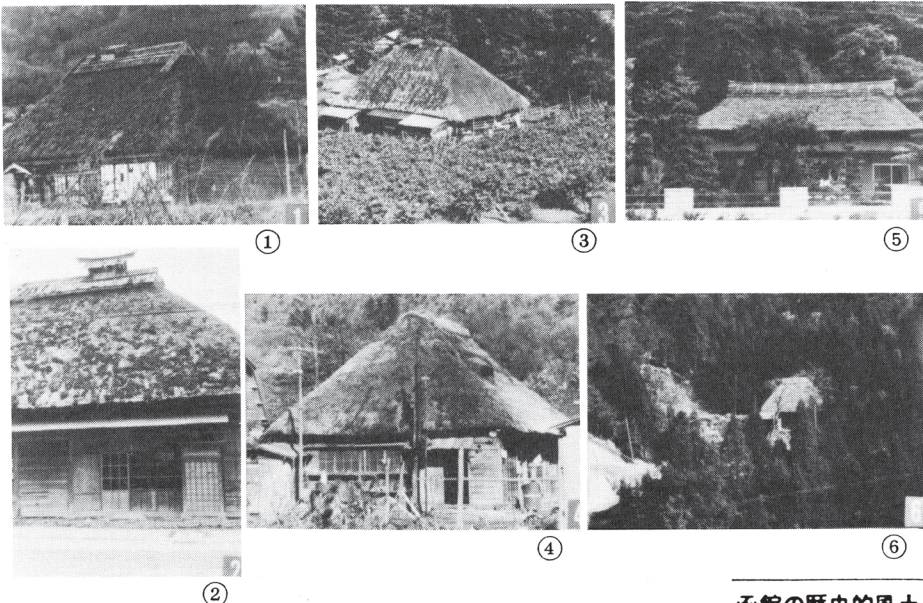
破風のない四つの傾斜の屋根からなり雨水が四方に流れ落ちるように葺きおろした形のを「寄棟」といふ、「四注造り」ともいう。屋根の面が四つあることから「よつやね」「よつや」（東北地方）、「四方屋根」「四方棟」（四国地方）などと呼ばれており、他に、山梨の「つぶし屋根」、岡山の「ふき止め」の呼で名もあり、また「あづまや（東屋）」の別名もある。これは、近畿地方に多い破風のついた「入母屋」に対して、関東以北の東国に多いことから東屋と呼んだものであろう。「東游雑記（天明8年（1788年）古松軒）に「破風の無き家を吾妻屋根と伝えり。実に東国の家造に破風の有りし家は一軒もなし、国風なるべし」とある。また「四阿」と書いて「あづまや」と読ませ、阿け軒を意味し四阿は家の四方に軒が回っている形をいう。

屋根外観にそれぞれの呼び名がある。屋根の水平の頂きを「大棟」といふ、四隅の斜めの棟を「隅棟」又は「降り棟」という。正面の梯形の屋根を「太平」、妻の三角屋根を「小平」（東北地方ではその形から「扇平」「扇間」などと呼んでいる。）

寄棟という屋根かたちは、東北から関東中部の一部、近畿から中国、四国、九州にと全国的に広く分布する型である。これは構造的に造りやすいことによるのだらう。

寄棟には、地域によっていくつかのタイプがある。旧津

軽藩領（津軽地方）の津軽型と呼ばれる寄棟は、横棧で押さえた板張りの山型棟、やゝ鋭角的な屋根、ハッポウ（破風の意で方言）と呼ばれる煙出しの上に乗せた小さな屋根に装飾的なものをつけていることが多い。（写真(1)及び(2)参照）、旧南部藩領（青森県東半分＝下北半島含む）＝と岩手県のほとんどの南部型と呼ばれる寄棟は、棟に芝草を植えて棟押さえとした芝棟、屋根はやゝ丸味を持っていて、津軽型とは民家形態上対象的である。註、芝棟は関東山地から東北にかけて多く見られる最も原始的な棟飾りで、東国では一般に棟飾り全般を「ぐし」と呼び、芝棟のことを「くれぐし」といふ、土塊を用いた棟の意である。（写真(3)(4)参照）、茨城県から栃木県にかけての関東型と呼ばれる寄棟は棟を竹を簀巻きにして、これにヒシヤゲ竹を馬乗り又はX状に交叉させて乗せて装飾し、棟の両端をやゝ高くして反りをうたせてある。この棟形式を「反り棟」と呼ぶ、（写真(5)参照）、旧薩摩型と呼ばれる寄棟は、棟は竹で押さえた竹棟、棟の長さが短い上に軒から棟にかけての屋根全体の形が高いため、勾配は53度という急傾斜をなしているの、外観はむしろ方形（宝形）型に近い。（写真(6)参照）。これらの他に、伊勢、伊賀型、四国北部の「四方蓋造り」などもあるが、紙面の都合で割愛した。次回は、寄棟の変型とされている「南部の曲り家」、「佐賀のくど造」などをテーマに予定している。



- ①②…津軽型寄棟造り  
棧付き板張り山形棟、隅棟稜線やゝ鋭角的
- ③④…南部型寄棟造り  
棟は芝棟、隅棟の稜線やゝ丸味
- ⑤……関東型寄棟造り  
棟は竹棟の反り棟
- ⑥……薩摩型寄棟造り  
急勾配の屋根かたちが特色

函館の歴史的風土を 尋ね・知れ・守ろう

事務局だより

★1月28日 国指定重要文化財函館市公会堂（旧函館区公会堂）を市民に公開貸館すること及びそのための 函館市公会堂管理運営審議会を設置することについての陳情書を市議会議長に提出しました。陳情書のあらまはは会報13号でお知らせした通りです。

会としての要望は、とり入れられませんでした。管理運営審議会設置は検討されることとなりました。なお、公会堂は現在多くの見学者で賑っています。歴史的建築物利用のあり方について今後ともみんなと考えてゆきたい。

★4月7日 ハリストス正教会聖堂修復費として1月26日行なったチャリティーパーティーの益金30万円を教会に寄付しました。改めてご参加ご支援下さった方々に感謝します。

★5月22日 昭和58年度総会、予算、決算、事業計画等が承認されました。総会終了後、石塚建築計画事務所主宰石塚雅明さんの「まちづくりの主体は誰か」と題する特別講演をして頂きました。小樽運河のきびしい実践活動を通じてのお話は説得力あり参加者一同大きな示唆と感銘をうけました。

▲事務局より会費納入のお願い

57年度未納の方よろしくご協力下さいますよう。個人会費1口2,000円お願いしたく、納入方法は同封の振替用紙（函館630）、又は拓銀昭和支店☎293-407 函館の歴史的風土を守る会々計佐々木正子宛です。

編集後記

▶東の間の真夏の夜「居酒屋兆治の女房を励ます会」主催のコンサートがあった。函館ロケでこられた兆治の女房こと、お登紀さんのほろ酔いコンサートである。会場は潮風が渡るレンカ倉庫が軒を連ねるウォーターフロントの拠点ユニオン・スクエアでした。お登紀さんはこの2月にも函館で歌った、その時は立派な舞台装置がある市民会館でした。今回は総建坪 800坪の中央広場 200坪のホールが舞台と観客席になった。見通しがよい2階デッキにも早々とファンが詰めかけ、総勢 600余のお客が手のとどく距離で歌う、お登紀さんを堪能した。市民会館の時より「ヨカッター」の声が多いのは、お登紀と観客の交流が濃密に暖たかく自然の形でなされた事で斯かる雰囲気づくりができる、ユニオン・スクエアを会場に選んだ主催者の演出力に感心しました。

▶こゝ1・2年前から西部地区が、そこはかとなく変わってきた。ひと昔前ならアッサリ取りこわされたかも知れない建物が立派によみがえり風情ある函館の町並みをつくっている。うれしい限りです。明治初期の石造店舗が喫茶店に教会が観光みやげ店に、質屋の蔵が茶房に民家がペンションに、古くは昔バンク今、ホテルの例はあまりにも有名です。この様な一連の動きの中で今回函館の歴史に大きな足

跡を刻むユニオン・スクエアが誕生します。歴史的建物の保存・再生を通じて新しい社会の創造、新しい町づくりを構想しての事業として、これを認識、評価し、あつい拍手と賞讃をおくりたい。今回はユニオン・スクエアの完成を記念し編集をしてみました。

★7月24日 ハリストス正教会の見学、草かり清掃奉仕を昨年同様、函館走ろう会の皆様のご協力を頂き致しました。草かり行事を道新記事で知り参加下さった方もおり、新しい仲間と共に清掃終了後、大森好男さんの歴史談義に耳を傾けました。

★9月11日 第4回ふるさと写生野外展は盛況裡に終わりました。指導審査に当たられた諸先生に感謝します。入賞作品は9月19日～25日迄NHK函館放送局ギャラリーで展示します。

★9月18日 称名寺の見学及び住職須藤隆仙さんからの歴史よもやま話を予定しております。

★ご存知、10年来、泥沼の小樽運河問題で先きに小樽商工会議所会頭が運河全面保存の意向をもらされた。当会として8月18日下記の電報を送りました。なお小樽運河問題に対しましては当会も加入しています全国町並み保全連盟として積極的に支援していきます。

- 宛先=小樽商工会議所 川合一成 会頭
- 電文=運河保存へのご英断に深く敬意を表し今後のご健闘を祈ります。
- 宛先=小樽 志村 市長
- 電文=未来の小樽のため、運河保存にむけ特段のご英断をお願い致します。

▶この会報でも幾人かの方が言われています、保存は新築より遥かに苦労が多いことです。函館の個性ある町並みは、斯かる方々の努力と犠牲の上にあるわけです。私共はこの現実に市民として一体何をし何ができるか問われています。行政が果す役割は計りがたく大きい。点在する歴史的な建物をどのように線として、面にまで広げてゆくのか総合的な都市計画による整備が待たれます。計画は21世紀の函館を想定した都市の論理の上に組み立てたいものです。

▶最近新しく完成した青柳町々会館が西部の町並み形成に貢献しているおはなし西部の町並みの特徴は何んなのかそのいくつかの原理を尊重し、文化の伝承に大変気くばりした建物です。美しい町並みは、古きよき建物の保存と共に新しい物のつくり方が大きな、きめ手になります。自分の家であっても外観は、即ち、町並みはみんなのものです。

▶最後になりましたが、ご多忙のところご執筆下さいました方々、貴重な写真を提供して下さいました方々に心よりお礼申しあげます。

田 尻

函館の歴史的風土を 守り・かゝる・守ろう